

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500206		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム くめの里		
所在地	山口県周南市大字久米字沢田1416-1		
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年 3月 11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の方々と共に家庭的で穏やかな生活」「(入居者さんの)その人らしさの尊重」「安心で快適な暮らし」を基本理念に掲げています。スタッフは20歳代、30歳代の入居者さんから見れば若い孫の世代が半数を占め、子供の世代である40歳代以上が数人と年代別にみるとバラエティに富んでいます。大家族で優しい孫と暮らしているように思っている入居者さんもおられます。この家庭的な雰囲気を大事にしながら、おひとりおひとりのペースや気持ちを大切に、想いをくみ取るケアをしていきたいと思っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者から好みや食べたいものを聞かれ、栄養バランスの取れた献立をたて、三食とも利用者と一緒に食事づくりをしております。職員も同じものを食べて、いろんな話題で会話をしながら、食事が楽しみなものになるように支援されています。テレビで好きな番組を視られたり、DVDで映画や歌を視聴されたり、ゲームや体操、月ごとの壁飾りづくり、繕いや雑巾づくり、散歩、買い物、ドライブ、掃除、食事の後片付け、洗濯物たたみなど、一人ひとりが楽しんだり、活躍できるように多くの場面をつくられて、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように取り組まれています。利用者は協力医療機関をかかりつけ医とされており、2週間に1回の往診を受けておられます。医療連携体制をとられており、職員として看護職を確保され、他科受診の支援や緊急時の対応など医療が受けられるように支援しております。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは地域の方々と共に笑顔あふれる家庭的で穏やかな生活を目指します」と理念に挙げています。地域の方との繋がりを大切にしていくよう努力していきます。	「私たちは、地域の方々と共に笑顔あふれる家庭的で穏やかな生活を目指します。私たちは、入居者さんのその人らしさを尊重し、自立を支援します。私たちは、入居者さんの健康に留意して、いつまでも安心して快適な暮らしができるようお手伝いします。」という意念をつくり事業所に掲示し、ミーティングや日々の業務の中で理念を確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度お話ボランティアの方々の訪問、2月からは読み聞かせのボランティアの方にも来ていただくことになっています。地域の方々の提案を幅広く受け入れていきたいと思っております。	買い物時に、地域の人と挨拶を交わしている。ボランティア(話し相手、絵本の読み聞かせ、紙芝居、フラダンス)の来訪がある。地域行事への参加はなく、近所づきあいや地域住民との交流もあまりない。	・地域行事等の情報の把握
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と交流し、ご意見をうかがえる場所づくりを今後企画していきたいと思っています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価については広くスタッフの意見を取り入れております。スタッフ一同評価を真摯に受け止め、高い質の介護を目指していきたいと思っております。	評価の意義を理解した上で、管理者と主任(計画作成担当者)を中心に一部の職員で検討し、自己評価を作成している。	・全職員での評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議においてはボランティア受け入れの提案、ケアへの要望、防災についてなど、様々な意見をいただき、サービス向上を目指し、積極的に取り入れさせていただいております。	市職員、地域包括支援センター職員、連合自治会長、地区自治会長、地区社会福祉協議会会長、認知症を支える会、家族代表メンバーで2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組み、利用者の状況、行事、ヒヤリハット、事故、避難訓練などについて報告し、意見交換している。意見を活かしてボランティアの来訪につなげている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員が運営推進会議に参加されて、事業所の実情報告を行い、ご意見をいただいております。	市の担当課とは運営推進会時や、出向いて情報交換する他、相談をして助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除いて常時リビングと玄関は開錠しています。近々に身体拘束の内容と弊害についての院内研修を開催し、スタッフ全員で共通理解して行きたいと思っています。また日々の対応の中で精神的にも身体的にも拘束になるのか、と考慮しながら入居者さんに接するよう努めています。	内部研修で身体拘束について学び、職員は正しく理解している。日々の業務の中で気づきがあれば、管理者や主任が指導するなど玄関の施錠も含めて抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加や院内研修の中で、高齢者虐待防止関連法について学んでいく機会を数多く設けていきたいと思っています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を活用している入居者さんの事例を取り上げ、制度について学んでいこうと思います。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安に思われていること疑問点について納得、理解をしていただけるよう、丁寧な説明を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族が遠慮なく意見や要望を言える関係作りに努めています。ご意見を承った場合にはスタッフ全員で共有し、改善できるように努力しています。	面会時や運営推進会議時、電話などで家族から意見や要望を聞き、相談にも対応しているが、運営に反映させるまでの意見や要望、苦情は出ていない。受付体制や処理手続きを定めて周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話で、職員の意見や提案を聞き取り、どの様に改善するのか話し合い、反映させるよう努めています。	毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日々の業務の中でも聞いている。1日の業務の流れの見直しやケース記録、業務日誌の様式や記録方法の改善について職員の意見や提案を活かしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力と、学ぶ姿勢を適切に評価できる体制を整えつつあります。入居者さんとの関わりの中でやりがいを見いだせるような職場の環境を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の学びたい姿勢を大切にし、外部研修への声掛け、院内研修では各人のレベルアップに向けて希望する研修内容を聞き取り、開催していくよう努力しています。	外部研修は情報を職員に回覧し、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。月1回の法人研修には、1~2名の職員が参加し、資料を閲覧し共有している。内部研修は、毎月の職員ミーティングの中で、その時期に合わせたテーマを決め、管理者や主任、法人の看護師が講師を務めて実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大和福祉会内での研修や勉強会に参加して情報交換しています。他事業所の良いところは積極的に取り入れ、相互に研鑽し、サービス向上を目指すよう努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に事前の面接を行い、居宅のケアマネと協働しながら、在宅サービスでの様子の聞き取り、ご家族への聞き取りを行い、ご本人の想いをくみ取る努力をしています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入以前にグループホームへの見学の声掛けをさせていただき、ご家族の不安な気持ちに応え、ご家族と一緒に入居者さんを支えていくよう努めております。入居された初期の段階ではご家族と密に連絡を取らせていただきグループホームでの様子をお伝えしています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後はご本人のお話を伺い、その時に必要としていることを見極め、適切なサービスを提供できるよう努めています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、ご本人のできる事を見極め、一緒に作業をさせていただいています。おひとりおひとりができる事で役割を持って暮らしていただけるようにしています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には写真付きで入居者さんの日頃の様子を伝えるお手紙を毎月出しております。その時の体調や、エピソードなどを伝えていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんのこれまでの生活歴を踏まえ大切なご家族やかつてのご近所さんに写真付きのお手紙を出しています。グループホームに面会に来られた際には一緒に撮った写真を送らせていただき、関係が切れないように支援しています。	知人や友人、親戚の人の来訪がある他、家族と電話で話せるように支援している。2ヶ月に1回、訪問美容師の来訪があり、利用者と馴染みになっている。家族の協力を得て外食や外泊の支援など関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ユニットに三つあるテーブルの席を決めて、入居者さん同士なじみの関係作りができるように支援しています。食事やレクリエーションを共に行って、関係が深まっていくよう心配りをしています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も折に触れお手紙を出してグループホームの近況をお知らせしたり、ご相談があった場合には誠実に答えていきたいと思っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとりおひとりの想いをくみ取り、今後の生き方、暮らし方の希望に添うように努めています。思いを伝えるに難しい方であっても、表情や雰囲気から意向を感じ取り、ご本人本位のケアを行えるよう努力しています。	「生活歴、介護状況等」シートを活用する他、日常の関わりの中で聞き取り、ケア記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人の表情や雰囲気を記録して職員が話し合う他、家族の情報などから本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接やケアマネ、ご家族からの情報によりそれまでのサービス利用状況、生活歴を把握するようにしています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、おひとりおひとりの時間の過ごし方の把握に努めています。心身状態等不安定であればさらに深く記録しスタッフが情報を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはご家族ご本人の話し合いは勿論の事、スタッフミーティングの場でも話し合い、必要な介護計画が作成できるよう努力しています。	把握している本人の思いや意向、家族の意見などを参考にして、毎月のケアカンファレンスで全職員で検討し、介護計画を作成している。3ヶ月ごとに評価し、現状に合わせて見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の過ごし方がケアプランに添っているか確認できるようケア記録のファイルにはケアプランもはせています。プランに添っていること、プランに必要なことについては記録の文字を青色に変えて実践状況がわかりやすくなるようにしています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携により、緊急の場合には24時間対応で指示を受けることができます。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が月一回訪問されています。紙芝居のボランティアも月二回慰問に来てくださっています。近くのスーパーへ買い物にも行っています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人、ご家族の希望に沿って行っています。受診の結果は必ずご家族に報告し、かかりつけ医との信頼関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援しています。	利用者は事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1回協力医の往診がある他、職員に看護職を確保し、他科受診の支援や緊急時の対応をするなど適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんに異変がある場合、気になることがあれば、グループホームのナースに相談し施設ナースに報告しています。リアルタイムで適切な指示が受けられる体制は整っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院した場合には、施設ナースを通し定期的な報告が受けられるようにしています。退院後も医療関係者との連絡を密に取り、相談、指示が受けられる関係作りをしていきたいと思っています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合においても、ご本人ご家族の希望があれば、できる限りご希望に沿っていける体制づくりに取り組んでいきたいと思っています。	事業所のできる重度化や終末期の対応について、契約時に口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合は関係者で話し合い方針を共有して支援できるように体制作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時の対応についてはスタッフミーティングでの研修、マニュアルを作成し全スタッフが対応できるようにしています。24時間体制で施設ナースに指示を仰ぐこともできます。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その場にいる職員で対応策を話し合い、月1回のミーティングで検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練はしていない。	・初期対応や応急手当の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会にもお知らせをして、年2回日中と夜間の火災時を想定した避難訓練を行い、消防署職員より指導を受けています。	消防署の協力を得て火災時(昼夜想定)避難訓練を年2回実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念をいつも心に持ち入居者さんと接するように努めています。	プライバシーの確保について全職員が内部研修で学んでいる。職員は利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がスタッフに想いを話すことができる関係作りを心がけています。思いや希望を表していただいた時にはできるだけその気持ちに添うよう支援しています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりのその日の気分を大事にしています。歌を聴きたい、今日はお風呂に入りたい、洋画を見たい、といろいろなご希望に添うことで満足していただけるよう支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問美容を利用し、入居者さんのご希望に沿った髪形にさせていただいています。普段の洋服も季節に合ったおしゃれな装いになるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それまでの入居者さんの食生活をあまり変えないよう、事前の聞き取りをし、お好みを把握できるようにしています。配膳、後片付けなど、お手伝いをお願いしております。	利用者の好みや食べたいものを聞いて、主任が栄養バランスを考慮して献立を立て三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は食材の買い物、テーブル拭き、お盆拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べている。家族や地域の人から果物の差入れがあり、食事の時に提供している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも水分補給の時間を決めて、お茶やスポーツドリンクなどを提供しています。おひとりおひとりの食べる量に合わせ、お茶碗の大きさを変えて提供させていただいています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個別で必ず行っています。できる方はご本人で、介助が必要な方にはおひとりおひとりの状態に合わせて、ハミンググッドなど器具を使用して、口腔内の清潔を行っています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを活用し、それぞれの入居者さんの排泄のパターンをスタッフ全員が把握し、失敗のないようにトイレの声掛けを行っています。	24時間シートで排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時の水分補給、運動等で便秘の予防に努めています。排便の状況は毎日細かくバイタル表に記入し、入居者さんの排便のペースを把握しています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ入居者さんのご希望に合わせて入浴をいただいています。その日の体調や気分に合わせて無理強いくことなく気持ちよく入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。	入浴は毎日、13時から16時まで可能で、利用者の希望や状態に合わせて支援している。利用者は歌を歌ったり、職員との会話を楽しんでいる。入浴したくない人には、時間をずらしたり、職員が交代するなど工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんそれぞれのペースで就寝できるようお手伝いしています。時に眠れない場合にも無理に眠らせようとはせず、ご本人が安心してお休みになるまで傍らに寄り添っています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬局より配布されるお薬情報をファイルしており、スタッフが必ず目を通し、入居者さんのお薬の目的、副作用、用法、用量について理解しています。新しいお薬を処方された時にはネットで検索し、より詳しい情報を共有しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族やご本人の聞き取りにより、生活歴を踏まえた役割を探すことに力を惜しみません。一日のうち必ずレクの時間を取り、入居者さんが楽しみ、活躍できる場面作りができるように支援しています。	テレビ視聴(水戸黄門、相撲、のど自慢、歌謡ショー)DVD視聴(映画、歌謡曲)新聞や雑誌を読む、お茶をたてる、花を生ける。音楽鑑賞、月ごとの壁飾りづくり、ぬり絵、しゃきり体操、口腔体操、ことわざ遊び、カルタ、トランプ、オセロ、ボーリング、風船バレー、掃除(モップかけ、窓ふき)、雑巾づくり、縫い物をする、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の片付けなど、楽しみごとや活躍できる場面作りをして、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出の機会を設けることはできませんが、気候が良い時期には外出イベントとして近郊へ出かけたりもしています。	周辺の散歩、買い物、ドライブ、家族の協力を得て、外食や外泊をするなど戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者さんそれぞれにお預り金があり、そこからお小遣いを出しています。パンの移動販売を利用したり、季節の良いときには一緒に買い物へ行き、お金のお支払いの支援をします。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんの要望があれば、ご家族へ電話をする支援を行っています。また年賀状を作成したり、便箋を用意したり、ご家族とのやり取りをお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間は湿度、温度が一定になるように保っています。トイレや浴室は汚れを残さないようにしています。壁面には季節感を取り入れた飾りを入居者さんと一緒に作っています。季節を感じ心地よく過ごせるよう工夫しています。	共有空間は広く明るく、温度、湿度、換気、音などに配慮している。リビングに壁には季節に合わせた飾り付けをしたり、季節の花が生けてあり、訪問時は、お雛様が飾ってあるなど季節感が感じられるように工夫している。三食とも食事づくりをしているキッチンから料理の音や匂いがして生活感もある。テレビ、テーブル、椅子、ソファなど配慮し、利用者が思い思いに居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニットのリビングスペースが隣接しているため入居者さん同士ユニットは違っても、仲が良い人同士会話を楽しんだり、思い思いの場所へ行かれ、自由に過ごしていただけるよう支援しています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で作ったお人形や、仏壇を置いている入居者さんもいます。なじみのものに囲まれて、違和感なくお部屋で過ごすことができるようお手伝いしています。	CDラジカセ、ラジオ、テレビ、洋服かけ、仏壇、人形、花かご、化粧品など、好みの物や生活用品を持ち込み、好きな歌手のポスターや家族の写真を飾って安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には入居者さんに合わせ、わかりやすいように名前を表示しています。トイレにも大きく「トイレ」と表示して自立の支援をしています。キッチンには危険物が見えないところに置き、いつも入居者さんが出入りできるスペースにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容